タイトル名「対人援助実践をリブートするこの一冊」

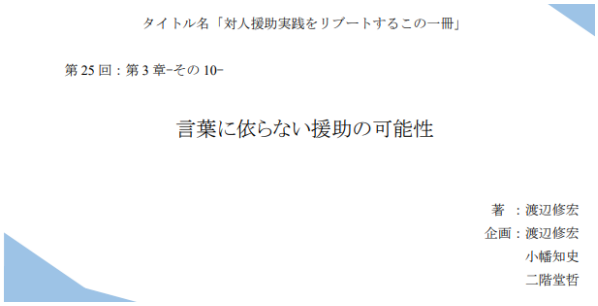
第 26 回：第 3 章−その 11−

# The things that are most important can not be seen

著　：渡辺修宏
企画：渡辺修宏
小幡知史
二階堂哲

## よくわからない

前回、A さんとのかかわりについて、「『よくわからない』けど,『よくわからないこと』をして,『よくわからない結果』になった事例」と記した。詳しくは「対人援助学マガジン 57 号」の 213 ページから読んでいただければ幸いである。


タイトル名「対人援助実践をリブートするこの一冊」

第 25 回：第 3 章−その 10−

言葉に依らない援助の可能性

著　：渡辺修宏
企画：渡辺修宏
小幡知史
二階堂哲

（https://www.humanservices.jp/wp/wp-content/uploads/magazine/vol57/39.pdf）

ところで、よくわからない、と、3 回も繰り返すのも、実にしつこいものである。

読み手もこれを読んで、さぞ、混乱したことであろう。ここまで繰り返す必要がないと思った方も少なくないかもしれない。ただ、書き手自身も大いなるためらいをもって書いたことも、あわせて指摘したい。対人援助学マガジン以外では、もう用いることのない表現だろう。

そんなことを考えながらこれを読み返していたところ、ふと、「星の王子さま」を思い出した。サン・テグジュペリが世に残したあの名作のことだ。実は私は、これまでに 4 回、「星の王子様」を読了している。

初めてこの作品を手に取ったのは、小学生か中学生の時であった。そのときは、「なぜ、この作品は世界的に有名なのだろう。なぜ名作と呼ばれるのだろう」と疑問に思うほど、ほとんど内容を理解できなかった。

2 回目に「星の王子様」を手に取ったのは、たぶん、22 歳の時だったと思う。その時になってはじめて、「ああ、これはメタファーに富んだ本だったんだ」と気付いた。しかし、まだその内容に合点がいかなかった。

3 回目は確か、娘が生まれて、絵本を揃えるようになった時だ。娘に読ませたくて再読し

たが、正直、まったくその魅力に気が付かず、そのまま放置してしまった。今は自宅の屋根裏で眠っているはずである。

そして 4 回目が、つい最近である。「星の王子様」の原文はフランス語*1 なのだが英語版が手に入って、英語の勉強のつもりで改めて読んだのであった。ようやくこの時、なぜこの作品が世界中で愛されているかが理解できた。

*1　星の王子様の作者である**アントワーヌ・マリー・ジャン＝バティスト・ロジェ・ド・サン＝テグジュペリ**（Antoine Marie Jean-Baptiste Roger, de Saint-Exupéry）はフランス人である。よって、彼の作品の原文はフランス語となる。ただし、フランス（1945）よりアメリカ（1943）での出版のほうが早かったため、世に出たのは英語版のほうが先かもしれない。

彼は小説家の前に飛行家（郵便郵送等のパイロット）であったため、その経験に基づく作品が多いことにもぜひ注目してほしい。実際、「星の王子様」でもその描写が多い。一説によると、「星の王子様」のストーリーは、彼の「サハラ砂漠での不時着とその後 3 日間の放浪（1935 年）」といった経験に基づくらしい。生と死の背中合わせの経験によって生まれた作品であることを踏まえながら読むと、この作品の本質が見えてくる気がする…。

出典
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%83%88%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%83%8C%E3%83%BB%E3%83%89%E3%83%BB%E3%82%B5%E3%83%B3%EF%BC%9D%E3%83%86%E3%82%B0%E3%82%B8%E3%83%A5%E3%83%9A%E3%83%AA
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%98%9F%E3%81%AE%E7%8E%8B%E5%AD%90%E3%81%95%E3%81%BE

## 目に見えない世界

A さんとのかかわりを記した前回の原稿を読んで「星の王子様」を思い出した理由は、「よくわからない」という表現が、「星の王子様」の第 21 章に登場するフレーズ、「一番大切なものは、目に見えないだよ」という表現を連想させたからである。

ちなみに、この英語版*2 では以下のように記されている。

Here is my secret. It is very simple: we do not see clearly, except when we look with our heart. The things that are most important cannot be seen with our eyes.
（意訳：ぼくの秘密を教えてあげるよ。とても簡単なことなんだ。ぼくたちは、こころの目で見ない限り、なにもはっきり見えないんだ。一番大切なものは目に見えないんだよ）
（最後の文のフランス語：Le plus important est invisible)

実は私は、この文章を読んで、「なぜ、これまでこの文章の意味に気が付かなかったのだろう」とショックを受けた。思わず手を止めて、しばし、呆然としてしまった。

ここでのショックを正確に語ることはできないが、以下、対人援助実践をリブートするための気付きとして、少しだけ、私の感じたことを記していく。

まず、私は、自身がかなり思い違いをしていたことに気づいた。それは、誰かを援助するという時に、援助しようとする意図や援助するための目的がそのままに、しかるべき成果をもたらすことがばかりではないことが当たり前であるという気付きであった。つまり、私は思い出したのだ。援助者による援助行為など、時に独りよがりで、過信に満ちた行為になりえるということを。

「〇〇が必要だから」、「〇〇になるべきだから」、「〇〇という変化をもたらそう」、というふうに援助者が考えて、そのためになんらかのアクションをその対象者に施しても、実際、援助者の意図通りの変化が、どれほどみられるというのだろうか。もしかしたらそのような恣意的な変化など、ほとんど起こっていないのかもしれない。むしろ、その対象者が援助を受けて、自ら何かに気づいて、何かを学んで、なんらかの変化を自ら起こしているのかもしれない。あるいは、援助者でもその対象者でもない他の何かがきっかけとなり、なんらかの変化を生み出しているのかもしれない。偶発的な変化が起こっているだけかもしれない。よくよく考えれば、それは自然なことである。

もしかして私は、「目にみえない働き」を軽視してしまっているのではないだろうか？

*2　おそらく英語訳にも複数のバリエーションが有ると思われる。私が読んだのは、IBC パブリッシングが 2023 年に発行した「英語で読む星の王子様新版」である。

－つづく－